総説

Ⅰ　市章



諫早市の「い」の文字を6つの輪（旧1市5町）で構成し、「調和する美しい自然風景と歴史」、「元気に響き合う市民の心」、「未来に飛躍する諫早市の姿」を表現しています。

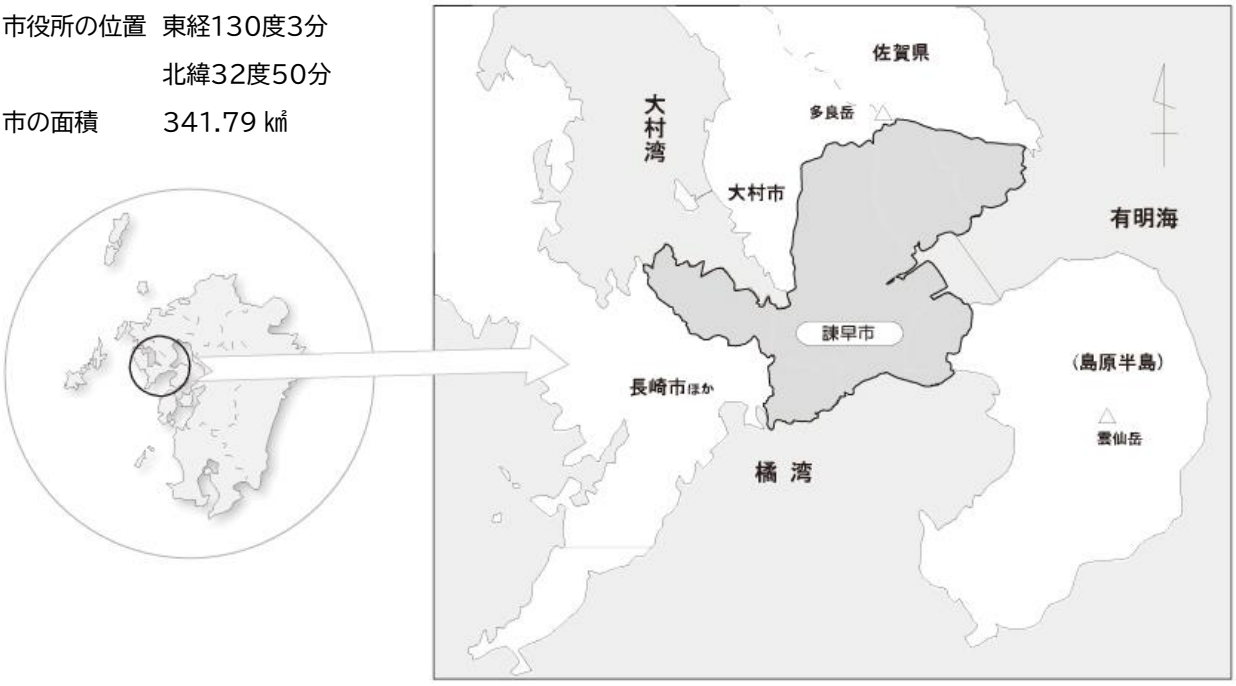
また、中央の白地が長崎県の「N」にも見え、県央に位置する諫早市を象徴しています。

（新市誕生を前に募集し、平成16年11月25日の合併協議会で決定されました。）

Ⅱ　市域

市役所の位置　東経130度3分
　　北緯32度50分

市の面積　341.79 ㎢



Ⅲ 沿革

長崎県南部の中央に位置し、有明海・大村湾・橘湾という3つの海に面した諫早地域は交通の要衝として古くから文献にも登場します。諫早の歴史はその地理的特性を活かし、陸や海を媒介とした他地域との活発な交流の歴史であったと言えるでしょう。

旧石器時代からの古墳時代

市内で最も古い時期の遺跡としては、大村湾南奥に位置する西輪久道遺跡(津久葉町)や鷹野遺跡(貝津町)、柿崎遺跡(貝津町)などがあります。これらは旧石器時代の遺跡で、約3万年前から約1万5,000年前のナイフ形石器文化の時期にあたります。

縄文時代は約1万年前に始まり、弓矢や土器の発明により狩猟や食料の対象が拡大された時期です。川頭遺跡(湯野尾町)は標高360mほどの高所に位置し、縄文時代早期の住居跡3棟が発見され、山間部での生活の様子が明らかになりました。有喜貝塚(松里町)は橘湾を望む縄文時代中期から後期の貝塚で、大正14年(1925年)、京都大学の浜田耕作博士によって発掘され、「長崎県考古学発祥の地」と言われています。伊木力遺跡(多良見町舟津)は大村湾南奥にあり、約5～6,000年前の縄文時代前期を代表する県内でも有数の遺跡です。縄文時代早期から後・晩期の土器のほか、ドングリの貯蔵穴や巨木をくりぬいた丸木舟が出土しています。築崎遺跡(飯盛町後田)では、縄文時代前期と後期の土器や石器が多く出土しています。以上の遺跡からは海と山に生活の糧を求めて活動する人々の姿がうかがわれます。

弥生時代には大陸から稲作や金属器などの新しい文化の波が押し寄せ、従来の狩猟・採集社会から大きく飛躍し、食料の生産が本格化します。新しい文化の一つとして支石墓という埋葬法がありますが、これは巨大な上石を数個の石で支える基盤のような形状で、約2,500年前の縄文時代晩期に朝鮮半島南西部から西北九州に伝わった墓制です。風観岳支石墓群(破籠井町)や井崎支石墓(小長井町井崎)がありますが、風観岳支石墓群は大村市との市境の標高200mほどの高所にあり60基以上が存在する大規模な墓地群で、埋葬施設も石棺・壺棺・土壙など多様です。諫早農業高校遺跡(立石町)からは銅剣を副葬した甕棺が出土しており、この時期の中核となる集団の墓地と考えられています。西ノ角遺跡(森山町上井牟田)では石庖丁や鉄製の鎌など水田耕作に伴う遺物や弥生時代後期の竪穴式住居跡が出土しています。

古墳時代になると有明海西岸や橘湾沿岸などで古墳が築造されます。善神さん古墳(高来町東平原)は線刻のある6世紀の古墳です。大峰古墳(小長井町大峰)・長戸鬼塚古墳(小長井町小川原浦)は複式構造の横穴式石室をもつ円墳です。大峰古墳は直径20mほどの6世紀代の円墳で、石室長8.6mの横穴式石室で「石棚」が設けられる本県唯一の古墳です。長戸鬼塚古墳は直径15mほどの6世紀後半の円墳で、この一帯では最大(全長11.3m)の石室をもっています。内部には、クジラや斜格子などの線刻があります。古墳はこのほかに飯盛鬼塚古墳(飯盛町後田・6世紀後半)や小野古墳(小野町・6世紀前半)・柏原古墳群(森山町上井牟田・6世紀後半から7世紀前半)があります。

飛鳥・奈良・平安時代

大化の改新(645年)により国家のしくみは大きく変わり、天皇を中心とした政府が全国の土地と人民を直接支配することとなりました(公地公民制)。最大の事業は班田制の実施で、口分田の支給と租税徴収を容易にするために土地を基盤目状に区画する「条里制」が行われ、その痕跡が、田井原条里遺跡(仲沖町・幸町)・小野条里遺跡(宗方町・長野町・川内町)・田結条里遺跡(飯盛町里)などに残っています。小野条里・田結条里には土地の区画を示す「二の坪」・「三の坪」などの小字名も残っています。

また、行政機構が整えられて、全国は畿内及び国・郡・里に分けられました。『肥前国風土記』(732年)によると現在の諫早市のうち多良見町は彼杵郡(長崎半島北部～西彼半島・大村湾一帯)に、その他は高来郡(長崎半島南部～橘湾・有明海沿岸～島原半島)に属していました。

奈良時代になり、律令政府は、中央と地方の連絡を

緊密にするため、早馬を走らせる駅路とその乗り継ぎ機関である駅家を整備しました。これは「駅制」と言われます。『延喜式』(927年)によると、長崎県内には新分(彼杵郡)・船越・山田・野鳥(以上高来郡)の4駅があり、「船越」は船越町にあったと想定されています。

律令体制の根幹である公地公民の制度はやがて崩壊していき、地方の豪族や貴族・寺社は大規模な開墾を進めました。これが、「荘園制」の始まりです。これは平安時代にはいっそう進み、地方の豪族たちは所有する土地を有力な荘園領主に寄進し、国の役人の干渉や租税から逃れようとしました。地方の豪族たちは荘官として年貢徴収、治安維持にあたり、武力を蓄え、のちに武士化していきます。

鎌倉時代から安土・桃山時代

鎌倉時代になると、宇佐神宮(大分県宇佐市)に保管されている建久8年(1197年)の『八幡宇佐神宮神領大鏡』という文書の中に、「伊佐早村」が初めて登場します。藤井宮時という伊佐早村の本領主が、もともと公領であったこの地方を、平安時代の末期には宇佐神宮の荘園として寄進していたことが書かれています。

その後、伊佐早村は宝治元年(1247年)には「伊佐早庄」として登場します。「伊佐早庄」は旧諫早市域のほか森山地域・飯盛地域・高来地域・小長井地域に及んでいたと思われます(多良見地域は「彼杵庄」)。正和3年(1314年)の『深江文書』によると「伊佐早庄」は仁和寺仏母院領(京都市)になったようで、この地が宇佐神宮や仁和寺といった有力な荘園領主の庇護のもとにあったことがわかっています。

この時期の地方豪族には、船越氏・西郷氏・伊佐早氏・高木氏・湯江氏・伊木力氏・船津氏などが見られます。正応年間(1288年頃)に船越又次郎入道如覚は伊佐早庄の実質的な管理をしていたようですが、正和3年(1314年)を最後に文献から姿を消しています。これに代わって登場するのが伊佐早氏です。伊佐早庄の荘官であったらしく、その後諫早の北側を支配するようになりました。

南北朝の争乱の時期になると荘園勢力は完全に消え去り、激しい領主交代が行われます。埋津川を境にして南側は宇木城を居城とする西郷氏が南朝方(公家方)に、北側は船越城を居城とする伊佐早氏が北朝方(武家方)について対立していました。明徳3年(1392年)に南北朝合一がなされ、続く戦国時代初頭に西郷尚善が登場すると、その後江戸時代になるまでの約100年間、西郷氏がこの地方を治めることになります。

西郷氏は、文明6年(1474年)、高城(高城町)を築き、さらに外敵の侵入を防ぐために沖城(仲沖町)・江城(森山町杉谷)・真崎城(真崎町)・古田城(高来町善住寺)などの支城を築きました。土木技術にも優れ、用水路整備・干拓・開墾などに取り組み、孫の純尭の頃には、島原の有馬氏、平戸の松浦氏、大村の大村氏に肩を並べる豪族となりました。その後、西郷信尚が天正15年(1587年)の豊臣秀吉の島津攻略の命令に従わなかったため、秀吉は筑後柳川の龍造寺家晴に伊佐早領2万2千石の朱印状を与えました。家晴は西郷氏に高城の明渡しを迫りましたが、これに従わなかったので、家晴は高城を攻め、西郷氏は島原方面へ敗走しました。龍造寺氏はその後自らの姓を「諫早」と改め、時代は江戸時代へと移っていきます。

江戸時代

佐賀藩はもともと龍造寺氏の領国でしたが、慶長12年(1607年)に鍋島勝茂を初代藩主とする佐賀藩が成立します。諫早家は「御親類同格」の立場にあり、以後明治時代までの約260年間「佐賀藩諫早領」として藩政の一翼を担いました。当時の諫早領域は、多良見町の一部が大村藩に含まれていたことを除けば、ほぼ現在の諫早市と同範囲です。

本藩である佐賀藩は財政再建のため、慶長15年(1610年)と元和7年(1621年)の二度にわたり諫早領地を取り上げ、当初の2万2千石は1万石余りにまで減少しました。また、佐賀代官所を置くなど政治的・経済的に諫早領に対する支配体制を強化していきます。のちに8代領主茂行の本藩後継問題に関与したことに対し、領主の蟄居及び更なる領地の取り上げという処分がなされた際、かねてから鬱積していた本藩に対する不満は、若杉春后を中心とし、家臣・農民・町民を巻き込んだ寛延3年(1750年)の「諫早一揆」という形で噴出することとなります。

自然災害も領民を苦しめました。本明川ではたびた

び洪水が発生し、特に元禄12年（1699年）の水害では多くの生命が奪われ、翌年は一転して大干ばつに見舞われました。これらの災害の犠牲者を追悼するため、7代領主茂晴（しげはる）により富川に五百羅漢が刻まれました。

このような状況下にあっても、諫早の人々の英知・高い技術力は至るところで発揮されました。干拓による新田開発が盛んに行われ、山崎教清（のりきよ）（川内町）・松本四郎左衛門（飯盛町開）・陣野甚右衛門（森山町下井牟田）などが多大な功績を残し、今日の農業の大きな礎となりました。また、天保10年（1839年）に架橋された眼鏡橋は、永久に流れることのない橋をとの領民の悲願と石造二連アーチ橋という高度な技術力とが結実して完成に至りました。

江戸時代初期に確立した長崎街道は、長崎と小倉を結ぶ街道で長崎～多良見～諫早（永昌宿）～大村へとつながります。また、諫早を分岐点として高来（湯江宿）～小長井方面へは多良海道・竹崎街道が、森山方面へは島原街道がありました。諫早はこれらの陸路や海上航路が集中・通過する交通・運輸の要衝としての地理的条件を活かし、栄えてきました。

明治から昭和初期

慶応3年（1867年）、「王政復古の大号令」が出され、翌年の戊辰戦争を経て、明治4年には、廃藩置県が断行され、諫早は、佐賀県に編入されたものの、翌5年には長崎県となりました。

明治22年市制・町村制が施行され、1町18か村（諫早町、諫早村、北諫早村、小栗村、小野村、有喜村、真津山村、本野村、長田村、喜々津村、大草村、伊木力村、森山村、江ノ浦村、田結村、湯江村、小江村、深海村、小長井村）に再編されました。大正12年には、諫早町、諫早村、北諫早村が合併して諫早町となります。

産業では、養蚕業が盛んとなり、明治15年に士族授産として製糸会社大成社が設立され、その後、県立養蚕伝習所が諫早村に開かれるなど県内の養蚕・製糸業の中心地へと発展します。また、伊木力村を中心に品質に優れたみかんの商品栽培が拡大し、明治35年頃には「伊木力みかん」に名称が統一され、県産品の中心的地位を確立しました。

交通の整備も進み、明治31年に門司－諫早－浦上間の鉄道が開通し、明治44年には諫早－愛野間の島原鉄道が営業を開始、大正2年に島原湊まで開通しました。また、愛野、唐比、千々石間の温泉鉄道が大正 12年に開通し、さらに小浜まで延伸しましたが、昭和 13年に廃線となりました。昭和9年には国鉄平坦線（長崎本線）肥前山口－諫早間が開通しました。

道路も現在の国道の原形となる道が整備され、昭和8年には長崎－諫早間のコンクリート舗装が完成します。大正時代からタクシー、バス等の自動車営業が始まり、長崎県営バスが線路網を拡大していきました。

教育分野では、明治3年に好古館が廃止され同5年に学制が施行されると、各地区で小学校が続々と創立されました。明治40年に県立諫早農学校が創設され、同44年に発足した北高来郡立諫早実科女学校は大正9年に県立諫早高等女学校に生まれ変わり、明治17年に一旦廃止された諫早中学校が大正12年に復活、教育環境も充実しました。

昭和9年に都市計画が諫早町を中心に適用され、この頃から1町6村による合併機運が醸成され、昭和15年9月1日に諫早町、小栗村、小野村、有喜村、真津山村、本野村及び長田村が合併して諫早市となりました。

翌16年12月に太平洋戦争に突入し、すべては軍事優先となり、兵役召集、軍事動員が頻発し、学校教育の停止など総動員態勢となりました。

昭和中期（戦後）から平成

昭和20年代は激動の時代でした。昭和20年8月9日には長崎市に原子爆弾が投下され、約4,000名を超える被爆者を受け入れ救援看護にあたり、同15日終戦、9月には旧小野飛行場に連合軍約6,000名が進駐しました。

市民は、敗戦後の混乱の中で窮乏生活を強いられましたが、農地改革や教育自由化、地方自治制度などの民主化政策が推進され、昭和22年には国営諫早干拓が着工、聖母の騎士園が開設されました。

昭和20年代半ばを境に混乱期を脱し、バス路線の拡充や農林水産業などの生産が回復、奉納浮立や祭りが復活され、市民生活も安定に向かいました。

昭和30年2月11日、町村合併促進法により、喜々津村、大草村、伊木力村が合併して多良見村に、江ノ

浦村と田結村が合併して飯盛村が発足し、翌年9月20日には、湯江町、小江村、深海村が合併して高来町となりました。

昭和32年7月25日、未曾有の諫早大水害が発生、本明川はじめ多くの河川が氾濫、各所で山崩れが起こり、死者行方不明者630名などの大災害に見舞われました。この危機に地域が一致団結し、短期間に本明川等の大改修や災害復旧を成し遂げました。

昭和30年代後半は高度経済成長の中、西諫早地区への工業団地の立地など徐々に都市化が進み、昭和40 年に飯盛村と多良見村が相次いで町制施行し、昭和41年に小長井村が小長井町に、昭和44年には森山村が森山町になりました。

昭和44年の第24回国民体育大会の主会場開催は県央地区発展の大きな契機となりました。長崎バイパスや諫早バイパスの開通、諫早－長崎間の複線化・電化、国道251号の開通や国道34号の改良開始など都市基盤が着実に整備されます。長崎市との時間距離の大幅な短縮は西諫早ニュータウンや喜々津シーサイドなどの市街地開発を促進しました。

また、近隣市町村による共同事務処理は昭和39年に開始された伝染病予防事務を皮切りに、昭和40年代後半には、し尿処理や県央地域広域市町村圏組合による消防救急事務、不燃物処理に拡大されました。

昭和50年代はじめには国立諫早青少年自然の家や「いこいの村長崎」が相次いで開設され、諫早文化会館も完成、橘湾でのタンカー石油備蓄が行われたのもこの頃です。昭和51年、国道207号（諫早－小長井）が小長井大橋の完成によって開通し、昭和57年には長崎自動車道（多良見－大村）が、さらに翌年に諫早北バイパスが開通するなど、県内交通の要衝として発展を遂げます。しかし、昭和57年7月23日、突如として猛烈な集中豪雨に襲われ、死者21名など飯盛町を中心に大きな被害を受けました。

昭和60年代は、226ha の規模を持つ諫早中核工業団地の完成で幕を明け、企業進出が相次ぎ、県内有数の産業集積拠点を形成し、平成元年には国営諫早湾干拓事業が着工されました。

平成8年、木造では最大規模の森山町図書館が開館し、拠点施設となる諫早図書館が平成13年にオープン、続いて海に面したたらみ図書館が開館、小長井文化ホールや高来西ゆめ会館など生涯学習施設の整備が進みました。また、森山スポーツ交流館や小野体育館などスポーツ施設も充実し、平成15年には全国高等学校総合体育大会の5競技が開催され、郷土高校生の活躍が市民に大きな感動を与えました。

合併、新たな歩み

平成5年に長崎県央地方拠点都市地域の指定を受け、県央地区の市町間の結びつきはさらに強まり、平成7年の地方分権推進法、平成12年の地方分権一括法、合併特例法の改正により地方自治も新たな時代に入りました。

平成12年2月には「県央地区市町村合併等調査研究会」が設置され、県央地区の1市5町の合併は段階的に任意合併協議会、法定の合併協議会と前進しました。

平成16年4月28日、1市5町は合併協定書に調印各議会の議決を経て、同年7月14日の総務大臣告示をもって正式に合併が決定しました。

平成17年3月1日、先人が築いてきた諫早市、多良見町、森山町、飯盛町、高来町、小長井町の輝かしい財産を新市に引き継ぎ、21世紀の県央拠点都市づくりに向けて「新・諫早市」が新たに船出いたしました。

平成17年9月に「平和都市諫早宣言」を行い、10月には「諫早市誕生記念式典」を開催し、「市の木」「市の花」を制定しました。

平成18年3月、市勢振興の基本方針となる「諫早市総合計画」を策定しました。

平成19年11月には、平成26年に本県で開催の第69回国民体育大会の開閉会式会場に県立総合運動公園陸上競技場が決定し、35年来の懸案であった九州新幹線西九州ルート武雄温泉・諫早間が、平成20年3月26日に認可・着工されました。

本市の防災機能の要であり、最先端農業の拠点となる「国営諫早湾干拓事業」が事業着手以来22年の歳月を経て完成。平成19年11月20日完工式が挙行され、平成20年4月から本格的な営農が開始されました。

平成21年3月には、白木峰高原に、子どもたちが「生きる力」を培う場となる「こどもの城」が開館しました。

平成22年1月、市民の誰もが利用しやすく、有事の際の防火拠点施設でもある新庁舎で執務を開始しました。

平成24年6月29日には、既に建設中の九州新幹線西九州ルート武雄温泉・諫早間に加え、悲願であった長崎までの延伸と、肥前山口・武雄温泉間の新幹線事業による在来線複線化などを含んだ武雄温泉・長崎間のフル規格による整備の認可を受け、10年後の全線一括開業に向け、工事が着手されることとなりました。

平成24年7月27日から、17日間にわたりロンドンオリンピックが開催され、内村航平選手が体操個人総合で金メダルを獲得するなど、郷土選手が活躍しました。平成25年3月には、諫早中央体育館（内村記念アリーナ）を供用開始しました。

平成26年3月、市民の文化の発展と地域の振興を図る諫早市美術・歴史館が開館し、記念企画展として「諫早家ゆかりの品々展」を開催しました。

平成26年10月12日から11日間にわたり、第69回国民体育大会「長崎がんばらんば国体」が諫早市をメイン会場として開催され、45年ぶり2度目の天皇杯獲得を果たしました。また、11月1日から3日間、第14回全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会」が開催され、各地で熱戦が繰り広げられました。大会期間中は、諫早市の物産、観光、歴史、文化などの様々な情報が発信されるとともに、両大会を通じ、運営に参画いただいた延べ約1,000人のボランティア等の協力のもと、市民総参加によるおもてなしが行われ、市民に多くの感動を与え成功のうちに閉幕しました。

平成27年3月1日、諫早市市制施行（合併）10周年を記念して記念式典が開催され、さらなる市勢発展に向けて新たな一歩を踏み出しました。

平成27年4月、新たな防災拠点となる県央消防本部・諫早消防署新庁舎が完成し、供用が開始されました。

平成28年3月、新たな10年間を見据えたまちづくりの指針となる「第2次諫早市総合計画」を策定するとともに、少子高齢化・人口減少対策を戦略的に推進していくため、「諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

平成28年10月15日から4日間にわたり、第29回全国健康福祉祭ながさき大会「ねんりんピック長崎2016」が、「長崎で、ひらけ長寿の夢・みらい」をテーマにトランスコスモススタジアム長崎（県立総合運動公園陸上競技場）において盛大に幕を開けました。全国から選手、役員及び観客を含め約55万人が来県し、県内各地でスポーツや文化の交流大会をはじめ、健康に関する様々なイベントが実施されました。本大会の実施にあたり、多くのボランティア等の協力のもと、市民総参加によるおもてなしの取組により、多くの喜びと感動や記憶に残る大会として成功のうちに閉幕しました。

平成29年5月、長崎県で初となる総合水防訓練「本明川総合防災演習」を、国、県、本市の主催で開催し、水防の重要性の普及を図り、水防意識の高揚に努めました。同年11月、本市にあるトランスコスモススタジアム長崎をホームスタジアムとするV・ファーレン長崎が、平成17年のチーム発足から13年目にして、念願であったJ1昇格を果たしました。

平成30年7月、スポーツパークいさはやの第1野球場とスケートボード場を供用開始しました。また、同年8月には、諫早駅自由通路、JR九州の在来線と島原鉄道の新駅舎が完成し、供用が開始されました。

平成から令和へ

2019年5月1日、改元が行われ、「平成」から「令和」へと新時代が幕を開けました。同年8月、スポーツパークいさはやの第2野球場とサッカー場を供用開始しました。

令和元年12月に中華人民共和国において新型コロナウイルス感染症の感染事例が確認され、全世界に感染が拡大しました。令和2年3月に県内初の感染事例が確認されて以降、本市においても感染例の報告が相次ぎました。本市は3月16日に「諫早市新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、国や県と歩調を合わせた感染症対策を実施しつつ、本市独自にも「緊

急経済対策」やワクチン接種体制の整備など感染予防対策に取り組んできました。

令和5年5月8日、感染症法上の分類が「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられたことを受け、同日付けで対策本部を廃止しました。これまでの感染者の入院勧告や外出自粛要請など特別な対応は終了し、個人の選択を尊重し、自主的な取組を基本とした考え方に変更となり、社会の正常化に向けた転換点を迎えました。ワクチン接種については、公費負担による特例臨時接種が令和6年3月末をもって終了とされ、令和6年度から定期接種の対象とされています。

津久葉町にある中核工業団地については、令和3年4月に「ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社長崎テクノロジーセンター」の増設棟が竣工し稼働しました。その後、当増設棟が更に拡張され、令和5年12月に竣工しました。

また、小栗地区（栗面町、平山町、小ヶ倉町）にある南諫早産業団地については、令和5年4月に京セラ株式会社と県、市の三者で立地協定を締結し、令和6年9月、第1工場建設に着工、令和6年1月には福砂屋の新工場の立地が決定するなど、新たな雇用創出と地域経済の発展につながることが期待されます。

令和4年9月23日の西九州新幹線の開業に合わせ、諫早駅東地区の再開発事業や駅直結のバスターミナルが完成し、県央地域の玄関口として交通結節機能の強化が図られました。

令和7年10月4日、市制施行20周年記念式典を諫早文化会館で挙行し、本市のこれまでの歩みを振り返りながら、更なる市勢の発展に向けた新たな一歩を踏み出しました。

同年11月1日には、本市初の道の駅となる「道の駅251いいもりじゃがーロード」が開駅し、本市農林水産物の魅力を発信する拠点施設として、市内外からの多くの来場者で賑わいを見せています。

令和8年3月には、今後10年間のまちづくりの指針となる「第3次諫早市総合計画」とともに、「第3期諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、新たな将来都市像である「来てよし、住んでよし、育ててよし！　輝く諫早　夢かなうまち」の実現に向けた取組がスタートしました。

現在、諫早市は、県の地方機関「県南振興局」の庁舎建設に併せた諫早駅北地区の整備事業をはじめ、本明川ダム、幹線道路、新たな産業団地や交流施設の整備といった大型事業が集積するとともに、大型商業施設の開業も控えるなど、将来の発展につながる大きな変革の時期を迎えています。

Ⅳ 市長･副市長

1 市長

氏　名		就任年月日	退任年月日
初代	吉 次 邦 夫	平成17年4月10日	平成21年4月9日
2	宮 本 明 雄	平成21年4月10日	平成25年4月9日
3	宮 本 明 雄	平成25年4月10日	平成29年4月9日
4	宮 本 明 雄	平成29年4月10日	令和３年４月９日
5	大久保 潔 重	令和3年4月10日	令和７年４月９日
6	大久保 潔 重	令和7年4月10日	在　任　中

2 副市長

氏　名	就任年月日	退任年月日
副 島 宏 行	平成17年5月21日	平成21年5月20日
宮 本 明 雄	平成19年4月1日	平成20年12月31日
藤 山 正 昭	平成21年5月21日	平成25年5月20日
早 田　実	平成25年5月21日	平成29年5月20日
勝 見 康 生	平成27年4月1日	平成29年6月30日
早 田　実	平成29年5月21日	令和3年4月30日
大 水 敏 弘	平成29年7月1日	令和2年3月31日
阿 部 寿 志	令和２年４月１日	令和3年6月30日
藤 山　哲	令和３年５月１日	令和7年4月30日
石 橋 直 子	令和３年７月１日	令和7年6月30日
藤 山　哲	令和７年５月１日	在　任　中
石 橋 直 子	令和７年７月１日	在　任　中

※地方自治法の改正により、平成 19 年４月１日より市長の補助機関として助役に代わり副市長が新設されました。

Ⅴ 市議会議長･副議長

1 議長

歴　代	氏　名	就任年月日	退任年月日
初　代	古 川 利 光	平成17年4月27日	平成19年4月26日
2	中 村 敏 治	平成19年4月26日	平成21年4月9日
3	並 川 和 則	平成21年4月24日	平成23年4月25日
4	並 川 和 則	平成23年4月25日	平成25年4月9日
5	村 川 喜 信	平成25年4月25日	平成27年4月24日
6	山 口 隆一郎	平成27年4月24日	平成29年4月9日
7	松 本 正 則	平成29年4月20日	平成31年4月22日
8	田 川 伸 隆	平成31年4月22日	令和３年４月９日
9	林 田 直 記	令和3年4月22日	令和5年4月25日
10	南 条　博	令和5年4月25日	令和７年４月９日
11	北 島 守 幸	令和7年4月17日	在　任　中

2 副議長

歴　代	氏　名	就任年月日	退任年月日
初　代	川 浪 昭 博	平成17年4月27日	平成19年4月26日
2	水 田 寿 一	平成19年4月26日	平成21年4月9日
3	宮 崎 博 通	平成21年4月24日	平成23年4月25日
4	土 井 信 幸	平成23年4月25日	平成25年4月9日
5	藤 田 敏 夫	平成25年4月25日	平成27年4月24日
6	松 本 正 則	平成27年4月24日	平成29年4月9日
7	西 口 雪 夫	平成29年4月20日	平成31年4月22日
8	島 田 和 憲	平成31年4月22日	令和３年４月９日
9	林 田　保	令和3年4月22日	令和5年4月25日
10	中 村 太 郎	令和5年4月25日	令和７年４月９日
11	北 坂 秋 男	令和7年4月17日	在　任　中

Ⅵ 最近の主なできごと

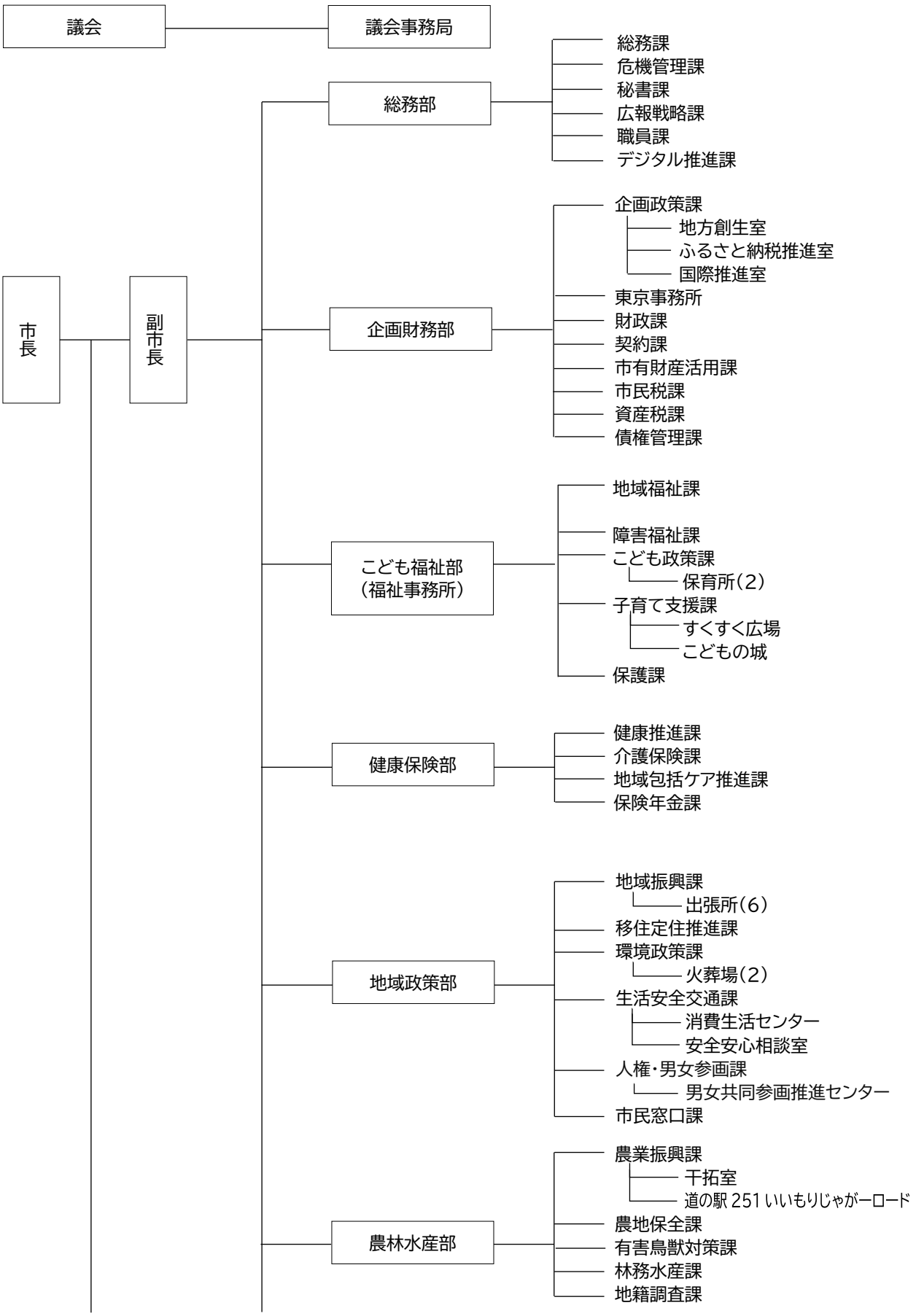
年	月	主な出来事
平成28	3	有喜・松里地区浄化センターが稼働を開始
		第2次諫早市総合計画を策定(平成28～令和7年度)
		「諫早市長期人口ビジョン」及び「諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定
	4	なごみの里運動公園が完成し全面開園
		熊本地震被災地へ職員を派遣
	6	九州新幹線西九州ルート建設に伴い、JR諫早駅が仮駅舎での営業を開始
		イノシシ処理販売センター開所
	8	諫早市サッカー場がオープン
		森山図書館で火災(落雷)
		内村航平選手(体操)、森岡紘一朗選手(競歩)、山口美咲選手(水泳)がリオデジャネイロオリンピックに出場。内村航平選手が団体で金、個人総合でも2大会連続の金メダル、山口美咲選手が400mリレーで8位入賞
		山口美咲選手にスポーツ特別功労賞を授与
	9	副島正純選手(車いすマラソン)がリオデジャネイロパラリンピックに出場
		内村航平選手に特別市民栄誉大賞を授与・祝賀パレード実施
	10	森岡紘一朗選手、副島正純選手にスポーツ特別功労賞を授与
		ねんりんピック長崎2016開催【総合開会式、ソフトボール、マラソン、ソフトバレーボール】
平成29	3	諫早市長に宮本明雄氏再選
	4	貝津西公園が開園
	5	諫早市美術・歴史館の来館者が10万人を達成
		諫早ゆうゆうランド干拓の里の入園者が300万人を達成
	6	いいもり月の丘温泉の入館者が200万人を達成
	8	井上大仁選手(マラソン)、山本凌雅選手(三段跳び)が世界陸上ロンドン大会に出場
	11	V・ファーレン長崎のJ1昇格が決定
		平成28年8月に落雷による火災被害のあった森山図書館が全面開館
	12	「吾妻・愛野バイパス」供用開始
平成30	2	J1リーグに初参戦のV・ファーレン長崎が開幕戦
		井上大仁選手(マラソン)が「東京マラソン2018」で日本歴代4位の記録で日本人2位となる総合5位
	3	「手話言語条例」を制定
		地域高規格道路「島原道路」の栗面インターから小船越インターまでの区間が供用開始
	5	内村航平選手(体操)がNHK杯で優勝し前人未到の10連覇達成
	7	諫早市第1野球場とスケートボード場がオープン
		西日本豪雨災害の給水支援のため、愛媛県宇和島市に職員を派遣
平成30	8	諫早駅自由通路開通、JR在来線諫早駅および島原鉄道諫早駅の新駅舎が供用開始
		井上大仁選手がアジア大会男子マラソンで優勝
		こどもの城来館者100万人突破
平成31	2	こどもの城10周年記念事業開催
	3	いさはや水辺のクロスカントリーコース完成
	4	2019いさはやつつじ祭り～諫早眼鏡橋架橋180年～開催
令和元	8	諫早市第2野球場、諫早市サッカー広場がオープン
	10	栄町東西街区市街地再開発事業による再開発ビル竣工

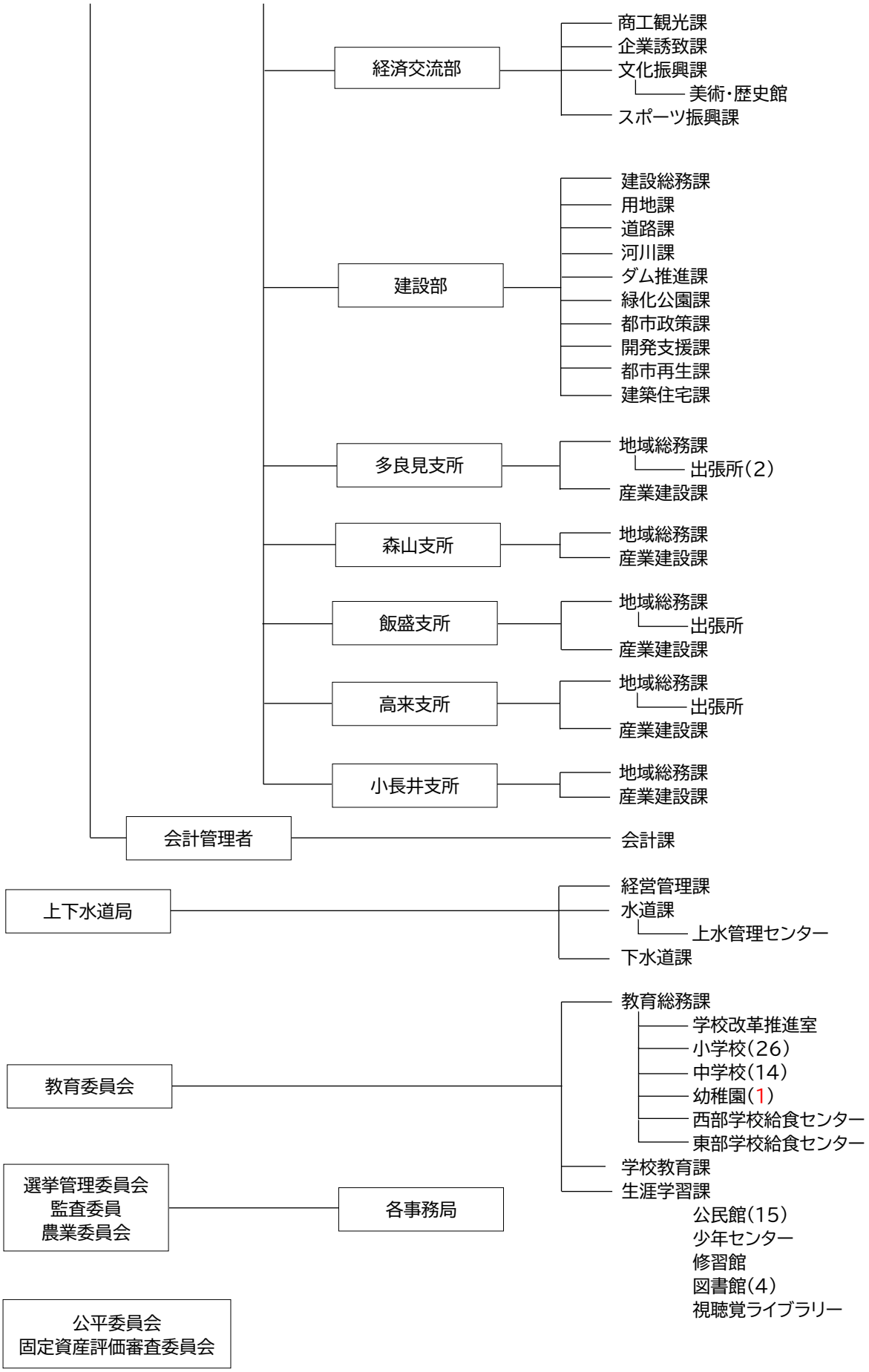
年	月	主な出来事
令和元	10	文化庁選定の歴史の道百選に多良通（多良海道）が追加選定
令和2	3	一般県道諫早外環状線諫早インター工区（栗面インター～諫早インター）全線開通
	4	新型コロナウイルス感染症対策のため、総務部に感染症対策総括室、健康福祉部に感染症対策室、商工振興部に緊急経済対策室を設置
	6	「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」が日本遺産に認定
	8	諫早市すくすく広場が開所
	9	諫早グルメ特化型の検索サイト「さぐっと」を運用開始
	12	iisa（諫早駅東地区再開発ビルⅠ棟）完成
令和3	2	健康福祉部にワクチン接種推進室を設置
		諫早市美術・歴史館の来館者が20万人を達成
	3	諫早市長に大久保潔重氏初当選
		ライオンズ諫早ステーションスクエア（諫早駅東地区再開発ビルⅡ棟）が完成
	4	諫早市テニス場（長崎県立総合運動公園内）のオープン
	5	副市長に藤山哲氏選任
		教育長に石部邦昭氏選任
		東京2020オリンピック聖火リレーが諫早市で開催
		諫早駅東口一般交通広場が供用開始
	7	副市長に石橋直子氏選任
		内村航平選手（体操）が東京2020オリンピックに出場
		永瀬貴規選手（柔道）が東京2020オリンピック男子81kg級で優勝
	10	内村航平選手（体操）が世界体操競技選手権に出場
		山崎賢人選手（自転車）がトラック世界選手権大会男子ケイリンで5位入賞
	11	「市川森一顕彰碑」が建立
	12	中国の友好都市「福建省漳州市」との友好交流提携30周年記念交流会を開催（オンライン形式）
令和4	4	11年ぶりとなる大規模な機構改革を実施
		市役所本庁舎（本館・別館）及び諫早駅（観光案内PRコーナー、交流広場）で使えるフリーWi-Fi（公衆無線 LAN）サービス開始
		諫早駅東口公共交通広場が供用開始
	5	一般県道諫早外環状線長野工区（長野インター～栗面インター）開通
		諫早バスターミナルが諫早駅東口（iisa1階）へ移転
		伊木力浄水場が落成
	6	山崎賢人選手（自転車）がアジア自転車競技選手権大会男子スプリントで優勝
	9	諫早駅西口交通広場の工事完成
		西九州新幹線が開業
	11	内村航平氏が大使第1号として「諫早市ふるさと特別大使」に就任
		うないさんが「諫早おもてなし大使」に就任
		45年ぶりの関取誕生・地元出身力士「對馬洋」
令和5	4	諫早市消防団が再編（78分団→20分団）
		京セラ株式会社と南諫早産業団地への立地協定を締結
		諫早市美術・歴史館10周年記念企画を通年で開催
	5	役所広司氏がカンヌ映画祭で男優賞を受賞
		教育長に石部邦昭氏再任
		南諫早産業団地の造成工事が完了
	6	臼木大悟選手（陸上）がヴィシー2023Virtus グローバルゲームズ（世界大会）で2冠
	7	垣根涼介氏が第169回直木賞を受賞

年	月	主な出来事
	11	淀川瑛澄選手(ソフトボール)が第14回男子U18ソフトボールワールドカップで優勝
	12	役所広司氏に市民栄誉賞を授与・記念イベントを実施
令和6	1	書かないワンストップ窓口を開始
	3	垣根涼介氏に市民栄誉賞を授与・記念イベントを実施
	4	学校給食費を完全無償化
		松田晏奈選手(陸上)がドバイ2024U20アジア陸上競技選手権大会女子100mハードルで2位
	5	小峰光遥選手(ベンチプレス)が2024世界ベンチプレス選手権大会エクイップ部門男子74㎏級で優勝
		三好優希選手(柔道)が2024年スペインジュニア国際柔道大会男子個人66㎏級で優勝
	7	松﨑賢士郎選手・草野龍二朗選手(剣道)が第19回世界剣道選手権大会団体戦で優勝。松﨑賢士郎選手が同大会個人戦で2位
		永瀬貴規選手(柔道)がパリ2024オリンピック男子81kg級で優勝(五輪同階級での史上初の連覇達成)
	8	全国高等学校総合体育大会(北部九州インターハイ)開催【ウエイトリフティング、ローイング】
	9	日本スポーツマスターズ2024長崎大会開催【ゴルフ、ソフトテニス、バドミントン】
	10	山﨑賢人選手(自転車)がトラック世界選手権大会男子ケイリン優勝。日本では37年ぶり史上2人目の快挙
		諫早消防署高来分署の新庁舎が完成
	11	中村優斗選手(野球)が東京ヤクルトスワローズからドラフト1位指名を受け、入団決定
		スポーツパークいさはや野球場のネーミングライツを「たちばな信用金庫」が取得し、第1野球場を「たちばなしんきんフィールド・オブ・ドリームス」、第2野球場を「たちばなしんきんボールパーク」に決定
	12	「千々石清左衛門の墓」が諫早市文化財に指定
令和7	2	本明川ダム本体工事着工
	3	諫早市長に大久保潔重氏再選
	4	長里小学校、小長井小学校、遠竹小学校を統合
		諫早文化会館がリニューアルオープン
		諫早図書館が「令和7年度子供の読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受賞
	5	副市長に藤山哲氏再任
	6	スポーツパークいさはやサッカー場のネーミングライツを「社会福祉法人登毛福祉会」が取得し、「なかよし村ナーサリー・サッカー広場」に決定
	7	副市長に石橋直子氏再任
		内田臣大郎選手(硬式野球)が2025ポニーU13 ワールドシリーズ大会で優勝
	9	ながさきピース文化祭2025開催
		茜つばき氏が「諫早市PR大使」に就任
		草場道輝氏が「諫早市PR大使」に就任
	10	諫早市市制施行20周年記念式典
		太陽保育所が完成
	11	道の駅 251 いいもりじゃがーロードが開駅
		松尾雄史氏が「諫早市PR大使」に就任
令和8	2	SEED1931(旧諫早銀行本店)が国登録有形文化財に登録
	3	第3次諫早市総合計画を策定(令和8～令和17年度)
		山茶花高原ピクニックパークに大型展望遊具が完成
		北諫早幼稚園閉園

年	月	主な出来事
令和8	3	スポーツパークいさはやスケートボード場のネーミングライツを「株式会社ライムイシモトあおぞらスケートパーク」に決定
	5	すくすく広場ぷらすがオープン
		道の駅251いいもりじゃがーロードの来場者が251，000人を達成
		教育長に池田尚氏選任

Ⅶ 組織・機構図


議会
議会事務局
総務部
総務課
危機管理課
秘書課
広報戦略課
職員課
デジタル推進課
市長
副市長
企画財務部
企画政策課
地方創生室
ふるさと納税推進室
国際推進室
東京事務所
財政課
契約課
市有財産活用課
市民税課
資産税課
債権管理課
こども福祉部
（福祉事務所）
地域福祉課
障害福祉課
こども政策課
保育所（2）
子育て支援課
すくすく広場
こどもの城
保護課
健康保険部
健康推進課
介護保険課
地域包括ケア推進課
保険年金課
地域政策部
地域振興課
出張所（6）
移住定住推進課
環境政策課
火葬場（2）
生活安全交通課
消費生活センター
安全安心相談室
人権・男女参画課
男女共同参画推進センター
市民窓口課
農林水産部
農業振興課
干拓室
道の駅 251 いいもりじゃがーロード
農地保全課
有害鳥獣対策課
林務水産課
地籍調査課


経済交流部
商工観光課
企業誘致課
文化振興課
美術・歴史館
スポーツ振興課
建設部
建設総務課
用地課
道路課
河川課
ダム推進課
緑化公園課
都市政策課
開発支援課
都市再生課
建築住宅課
多良見支所
地域総務課
出張所(2)
産業建設課
森山支所
地域総務課
産業建設課
飯盛支所
地域総務課
出張所
産業建設課
高来支所
地域総務課
出張所
産業建設課
小長井支所
地域総務課
産業建設課
会計管理者
会計課
上下水道局
経営管理課
水道課
上水管理センター
下水道課
教育委員会
教育総務課
学校改革推進室
小学校(26)
中学校(14)
幼稚園(1)
西部学校給食センター
東部学校給食センター
学校教育課
生涯学習課
公民館(15)
少年センター
修習館
図書館(4)
視聴覚ライブラリー
選挙管理委員会
監査委員
農業委員会
各事務局
公平委員会
固定資産評価審査委員会

Ⅷ 庁舎

1 本庁

⑴ 本庁



所在地 東小路町 7-1
電話番号 22-1500　FAX 24-3270
本館:平成21年11月30日完成 延床面積 18,236.81 ㎡
別館:平成15年6月30日完成 延床面積 3,915.15 ㎡

⑵ 出張所

名称	所在地	電話番号･FAX
小栗出張所	小川町1222	22-1533･24-0370
小野出張所	黒崎町181-2	22-0264･24-0483
有喜出張所	有喜町488	28-2001･28-2067
真津山出張所	山川町1-3	26-1500･26-1803
真津山出張所分室	貝津町2890	26-9467･26-1707
本野出張所	上大渡野町2-1	26-0270･26-2513
長田出張所	長田町2394-2	23-9024･23-9647

2 各支所



⑴ 多良見支所
所在地 多良見町化屋 1800
電話番号 43-1111　FAX 43-2072
昭和52年12月25日完成 延床面積 2,769.44 ㎡



⑵ 森山支所
所在地 森山町本村 1300
電話番号 36-1111　FAX 36-2504
昭和50年8月31日完成 延床面積 1,460.89 ㎡



⑶ 飯盛支所
所在地 飯盛町開 1929-3
電話番号 48-1111　FAX 48-1405
昭和53年9月30日完成 延床面積 2,386.00 ㎡



⑷ 高来支所
所在地 高来町三部壱 528
電話番号 32-2111　FAX 32-3235
平成11年5月31日完成 延床面積 4,646.11 ㎡



⑸ 小長井支所
所在地 小長井町小川原浦500
電話番号 34-2111　FAX 34-2335
昭和41年9月30日完成 延床面積 1,209.68 ㎡

⑹ 出張所

名称	所在地	電話番号･FAX
大草出張所	多良見町野副17-1	43-1221･43-1236
伊木力出張所	多良見町舟津1140	44-1002･44-1195
田結出張所	飯盛町里648-3	49-1111･28-4126
小江深海出張所	高来町峰19-1	32-2127･32-5180

Ⅸ 人口

1 国勢調査にみる人口の動き

令和2年10月1日現在

年次	世帯数(世帯)	人口(人)	対前回比(%)	男(人)	女(人)
大正9年	14,091	70,142		34,600	35,542
14年	14,623	73,950	+5.4	36,417	37,533
昭和5年	15,125	78,153	+5.7	38,280	39,873
10年	15,571	80,802	+3.4	39,678	41,124
15年	15,082	79,974	△1.0	39,538	40,436
22年	21,332	112,573	+40.8	54,573	58,000
25年	21,393	114,069	+1.3	55,752	58,317
30年	21,185	114,348	+0.2	56,220	58,128
35年	22,209	110,965	△3.0	54,109	56,856
40年	23,164	107,672	△3.0	51,847	55,825
45年	25,026	107,030	△0.6	51,114	55,916
50年	28,808	114,822	+7.3	54,956	59,866
55年	33,962	127,339	+10.9	60,962	66,377
60年	37,235	134,804	+5.9	64,319	70,485
平成2年	40,489	138,918	+3.1	65,846	73,072
7年	44,453	142,517	+2.6	67,203	75,314
12年	47,730	144,299	+1.3	68,149	76,150
17年	50,052	144,034	△0.2	68,154	75,880
22年	50,989	140,752	△2.3	66,192	74,560
27年	51,897	138,078	△1.9	65,029	73,049
令和2年	53,235	133,852	△3.1	63,544	70,308

資料…国勢調査

2 国勢調査にみる産業別就業者数

令和2年10月1日現在

産業分類別	R2年		R2年／H27年(%)	男(人)	女(人)
	就業者数(人)	構成比(%)			
総数	64,116	100.0	96.9	33,714	30,402
第1次産業	3,513	5.5	85.3	2,075	1,438
農業	3,301	5.1	85.2	1,910	1,391
林業	63	0.1	91.3	52	11
漁業	149	0.2	84.2	113	36
第2次産業	14,001	21.8	95.1	10,347	3,654
鉱業、採石業、砂利採取業	49	0.1	67.1	36	13
建設業	5,740	9.0	98.3	4,838	902
製造業	8,212	12.8	93.2	5,473	2,739
第3次産業	44,308	69.1	98.6	20,084	24, 224
電気・ガス・熱供給・水道業	284	0.4	98.6	242	42
情報通信業	544	0.8	90.7	381	163
運輸業、郵便業	2,705	4.2	101.5	2,289	416
卸売業、小売業	9,742	15.2	96.7	4,565	5,177
金融業、保険業	1,310	2.0	96.5	468	842
不動産業、物品賃貸業	837	1.3	107.9	487	350
宿泊業、飲食サービス業	3,081	4.8	89.6	1,004	2,007
教育、学習支援業	3,350	5.2	103.5	1,432	1,918
医療、福祉	12,075	18.8	102.7	2,781	9,294
複合サービス事業	625	1.0	80.7	368	257
サービス事業(他に分類されないもの)	6,999	10.9	99.2	4,037	2,962
公務(他に分類されるものを除く)	2,756	4.3	95.0	2,030	726
分類不能の産業	2,294	3.6	95.8	1,208	1,086

〔備考〕総数は15歳以上の就業者を示すもので、完全失業者、非労働者は含んでいない。
※サービス業(他に分類されないもの)には、学術研究、専門・技術サービス業、生活関連サービス業、娯楽業を含む。
構成比は小数点第2位を四捨五入。

資料…国勢調査

3 町別・地区別人口

令和8年8月1日現在

町名・地区名	合計	男	女	世帯	町名・地区名	合計	男	女	世帯
東小路町	93	46	47	57	長野町	854	425	429	387
仲沖町	1,062	498	564	442	宗方町	651	322	329	278
上町	281	139	142	159	**小野小校区(小野計)**	**5,299**	**2,552**	**2,747**	**2,268**
栄町	346	155	191	175	松里町	802	388	414	350
八坂町	86	40	46	45	有喜町	1,499	633	866	376
本町	205	89	116	93	早見町	382	178	204	181
東本町	246	123	123	144	天神町	325	168	157	134
旭町	315	144	171	150	中通町	557	247	310	231
八天町	628	303	325	344	鶴田町	126	64	62	50
厚生町	265	130	135	156	**有喜小校区(有喜計)**	**3,691**	**1,678**	**2,013**	**1,322**
高城町	79	29	50	49	久山町	1,941	1,031	910	892
幸町	3,342	1,601	1,741	1,596	久山台	1,703	849	854	757
諫早小校区計	**6,948**	**3,297**	**3,651**	**3,410**	貝津町	3,363	1,865	1,498	1,610
西郷町	1,058	488	570	490	貝津ヶ丘	882	445	437	238
新道町	434	208	226	224	若葉町	1,559	885	674	743
立石町	222	111	111	106	津久葉町	10	10	0	10
上野町	373	183	190	155	青葉台	664	327	337	320
船越町	911	468	443	507	**真津山小校区計**	**10,122**	**5,412**	**4,710**	**4,570**
原口町	1,390	657	733	662	真崎町	3,493	1,682	1,811	1,436
西小路町	426	205	221	181	津水町	429	225	204	190
宇都町	1,075	495	580	564	※真崎団地	305	132	173	131
野中町	743	339	404	256	※白岩町北部	633	298	335	252
上山小学校区計	**6,632**	**3,154**	**3,478**	**3,145**	堀の内町	511	222	289	226
福田町	4,235	2,040	2,195	1,894	**真城小校区計**	**5,371**	**2,559**	**2,812**	**2,235**
泉町	1,390	652	738	678	※堂崎町	1,876	767	1,109	968
城見町	1,784	849	935	807	※白岩町	1,133	496	637	521
天満町	2,228	1,068	1,160	1,122	**真崎小校区計**	**3,009**	**1,263**	**1,746**	**1,489**
金谷町	542	260	282	236	小船越町	4,495	2,220	2,275	2,106
日の出町	1,750	862	888	749	※中尾町	795	354	441	379
北諫早小学校区計	**11,929**	**5,731**	**6,198**	**5,486**	※山川町	1,444	645	799	628
永昌町	2,143	1,013	1,130	1,112	※馬渡町	1,381	652	729	612
永昌東町	1,145	537	608	647	**西諫早小校区計**	**8,115**	**3,871**	**4,244**	**3,725**
栄田町	4,537	2,121	2,416	2,007	**真津山計**	**26,617**	**13,105**	**13,512**	**12,019**
西栄田町	1,284	624	660	492	**※西諫早ﾆｭｰﾀｳﾝ計（再計）**	**7,567**	**3,344**	**4,223**	**3,491**
破籠井町	370	188	182	141					
大さこ町	985	481	504	278	本野町	425	209	216	134
御館山小学校区計	**10,464**	**4,964**	**5,500**	**4,677**	富川町	152	69	83	66
本明町	606	275	331	241	湯野尾町	247	116	131	115
目代町	1,067	500	567	320	上大渡野町	532	237	295	137
上諫早小学校区計	**1,673**	**775**	**898**	**561**	下大渡野町	448	214	234	177
中央計	**37,646**	**17,921**	**19,725**	**17,279**	**本野小校区計(本野計)**	**1,804**	**845**	**959**	**629**
小ヶ倉町	171	79	92	64	小豆崎町	850	421	429	360
小川町	3,836	1,961	1,875	1,393	西里町	814	392	422	315
鷲崎町	1,297	654	643	572	中田町	200	86	114	86
川床町	853	428	425	284	御手水町	177	91	86	77
小栗小校区計	**6,157**	**3,122**	**3,035**	**2,313**	大場町	75	33	42	34
栗面町	1,576	733	843	749	白木峰町	112	56	56	46
平山町	1,640	867	773	795	長田町	1,477	686	791	581
土師野尾町	277	133	144	123	正久寺町	344	160	184	131
みはる台小学校区計	**3,493**	**1,733**	**1,760**	**1,667**	高天町	259	123	136	104
小栗計	**9,650**	**4,855**	**4,795**	**3,980**	白浜町	304	136	168	121
赤崎町	487	221	266	214	白原町	240	114	126	90
黒崎町	403	192	211	160	猿崎町	115	55	60	49
小野町	857	418	439	405	**長田小校区計(長田計)**	**4,967**	**2,353**	**2,614**	**1,994**
小野島町	819	383	436	299					
川内町	1,228	591	637	525					

資料…諫早市町別推計人口

（令和2年国勢調査による人口集計を基にした人口及び世帯数を推計したもの）

町名・地区名	合計	男	女	世帯	町名・地区名	合計	男	女	世帯
シーサイド1区	615	274	341	255	池下	205	102	103	97
シーサイド2区	690	303	387	301	清水	422	208	214	163
シーサイド3区	673	319	354	276	寺平	227	108	119	89
シーサイド4区	650	316	334	283	田平	118	53	65	55
大島	919	443	476	450	川下	168	92	76	78
化屋	858	423	435	387	古場	223	108	115	92
喜々津東小校区計	**4,405**	**2,078**	**2,327**	**1,952**	**飯盛西小校区計**	**1,363**	**671**	**692**	**574**
停車場	457	232	225	240	**飯盛地域計**	**6,507**	**3,171**	**3,336**	**2,645**
福井田	215	86	129	108	神津倉	378	186	192	99
阿蘇	393	190	203	194	三部壱	582	297	285	272
丸尾1区	903	370	533	265	里	263	116	147	113
丸尾2区	511	237	274	226	町名	286	126	160	124
井樋ノ尾	396	188	208	182	法川	162	76	86	80
(喜)船津	404	202	202	177	黒崎	454	221	233	169
木床1	1,179	584	595	530	小峰	416	210	206	167
木床2	765	383	382	343	善住寺	147	73	74	54
中里	1,202	607	595	509	東平原	542	244	298	210
喜々津団地	957	455	502	456	水ノ浦	121	56	65	42
下市	610	300	310	247	溝口	499	220	279	221
上市	348	165	183	149	山道	176	81	95	83
山中	231	113	118	120	汲水	402	208	194	153
多良見団地	481	232	249	216	坂元	205	101	104	83
西川内	276	125	151	104	黒新田	53	28	25	8
喜々津小校区計	**9,328**	**4,469**	**4,859**	**4,066**	泉	153	60	93	66
東園	142	71	71	61	金崎	307	146	161	122
西園	196	95	101	81	**湯江小校区計**	**5,146**	**2,449**	**2,697**	**2,066**
野副	301	144	157	135	下与	600	281	319	250
大草小校区計	**639**	**310**	**329**	**277**	上与	83	45	38	36
元釜	398	178	220	153	峰	575	271	304	229
野川内	218	104	114	70	平田	109	51	58	40
山川内	89	45	44	37	折山	115	55	60	50
(伊)舟津	500	235	265	184	西平原	226	114	112	93
佐瀬	281	137	144	124	西尾	235	123	112	68
伊木力小校区計	**1,486**	**699**	**787**	**568**	小船津	220	103	117	106
多良見地域計	**15,858**	**7,556**	**8,302**	**6,863**	古場	52	20	32	23
田尻(釜西・中・上除く)	650	310	340	265	建山	126	59	67	46
杉谷	773	345	428	310	船津	424	213	211	177
唐比	980	414	566	347	大戸	358	190	168	152
森山東小校区計	**2,403**	**1,069**	**1,334**	**922**	冨地戸	311	154	157	132
慶師野	453	191	262	180	**高来西小校区計**	**3,434**	**1,679**	**1,755**	**1,402**
本村	633	312	321	238	**高来地域計**	**8,580**	**4,128**	**4,452**	**3,468**
田尻(釜西・中・上のみ)	175	85	90	67	遠竹	466	215	251	206
上井牟田	451	212	239	187	みさかえの園外	345	75	270	13
下井牟田	665	325	340	247	**遠竹小校区計**	**811**	**290**	**521**	**219**
森山西小校区計	**2,377**	**1,125**	**1,252**	**919**	井崎	676	304	372	283
森山地域計	**4,780**	**2,194**	**2,586**	**1,841**	小川原浦	1,127	513	614	432
後田	646	301	345	217	田原	507	238	269	311
船津	244	102	142	130	広川良	16	8	8	9
下釜	283	137	146	134	牧	353	170	183	143
久保	131	65	66	52	**小長井小校区計**	**2,679**	**1,233**	**1,446**	**1,178**
佐田	425	198	227	172	長里	837	399	438	339
小島	576	261	315	251	**長里小校区計**	**837**	**399**	**438**	**339**
平古場	901	471	430	357	**小長井地域計**	**4,327**	**1,922**	**2,405**	**1,736**
石原	430	208	222	148	**諫早市計**	**129,726**	**62,280**	**67,446**	**56,044**
山口	392	195	197	148					
開	750	379	371	325					
上原	366	183	183	137					
飯盛東小校区計	**5,144**	**2,500**	**2,644**	**2,071**					

資料…諫早市町別推計人口

X 予算

1 令和8年度の主な事業

●長崎ミュージックフェスマラソン開催事業

令和9年1月に県内初の日本陸上競技連盟公認フルマラソン大会で音楽と融合した国内初の本格的なマラソンイベントを開催することで、「スポーツのまち諫早」の魅力を国内外に発信し、交流人口の拡大と地域活性化を図る。

●高校生世代福祉医療費支給事業

令和8年10月診療分から高校生世代の福祉医療費を現物給付の方式により支給することで、子育て世帯の負担の更なる軽減を図る。

●(仮称)市民交流センター整備事業

新たな市民交流センターを整備することで、市民の芸術文化や生涯学習活動の振興を図るとともに、多様な世代の市民が自由に交流し、憩いの時間を過ごす、ゆとりある空間の創出を図る。

●諫早平山産業団地整備事業・同関連事業

新たな産業団地を整備し企業誘致を推進することで、雇用の創出、定住人口の拡大及び地域経済の活性化を図る。

●小長井地域義務教育学校整備事業

令和10年4月に小長井地域の小・中学校を統合した義務教育学校を新設し、異学年交流の実施やグローバルな人材育成に資する特色ある学校教育を編成することで、活気に満ちた学校生活と教育の質の向上を図る。

2 一般・特別会計総括表

(単位:千円)

会計名			令和8年度 当初予算額	対前年度 増減率(%)	令和7年度 当初予算額	令和7年度 最終予算額
一般会計			70,320,000	2.8	68,380,000	79,333,730
特別会計	国民健康保険事業		15,564,000	△ 2.1	15,896,000	16,253,010
	後期高齢者医療		2,603,000	11.8	2,328,000	2,445,221
	介護保険事業	保険事業勘定	14,614,000	△ 0.4	14,673,000	14,047,281
		サービス事業勘定	12,600	14.5	11,000	11,117
	駐車場事業		37,000	△ 2.6	38,000	38,000
	墓園事業		29,600	19.4	24,800	24,800
	小計		32,860,200	△ 0.3	32,970,800	32,819,429
合計			103,180,200	1.8	101,350,800	112,153,159

3 令和8年度一般会計当初予算の状況

（単位：千円）

歳入			
区分		金額	構成比（%）
自主財源	市税	19,079,697	27.1
	分担金及び負担金	196,700	0.3
	使用料及び手数料	736,862	1.0
	財産収入	220,193	0.3
	寄付金	399,801	0.6
	繰入金	3,314,041	4.7
	繰越金	1	0.0
	諸収入	2,811,411	4.0
	小計	26,758,706	38.0
依存財源	地方譲与税	550,356	0.8
	利子割交付金	63,000	0.1
	配当割交付金	122,000	0.2
	株式等譲渡所得割交付金	91,000	0.1
	法人事業税交付金	247,000	0.3
	地方消費税交付金	4,134,000	5.9
	ゴルフ場利用税交付金	39,000	0.1
	環境性能割交付金	1	0.0
	地方特例交付金	228,000	0.3
	地方交付税	12,911,000	18.4
	交通安全対策特別交付金	15,000	0.0
	国庫支出金	13,839,126	19.7
	県支出金	7,138,611	10.2
	市債	4,183,200	5.9
	小計	43,561,294	62.0
合計		70,320,000	100.0

歳出		
区分	金額	構成比（%）
議会費	373,023	0.5
総務費	1,964,758	2.8
企画財務費	1,789,644	2.5
こども福祉費	25,432,318	36.2
健康保険費	7,052,499	10.0
地域政策費	6,004,661	8.5
農林水産費	2,670,243	3.8
経済交流費	5,014,658	7.1
建設費	5,239,890	7.5
消防防災費	2,228,608	3.2
教育費	6,328,945	9.0
災害復旧費	51,000	0.1
公債費	6,119,753	8.7
予備費	50,000	0.1
合計	70,320,000	100.0